

2011年(平成23年)10月17日 月曜E

## 骨粗鬆症 仕組み一部解明

運動しないと骨が弱くなるのは、交感神経と骨を結ぶたんぱく質の働きが原因だと、東京医科歯科大の野田政樹教授らのチームが明らかにした。このたんぱく質を抑えられれば、骨粗鬆症の安価な治療薬ができる可能性があるという。

ば、骨粗鬆症こつそしょうしょうの安価な治療薬ができる可能性があるという。

チームは、マウスに薬を与えて交感神経を刺激すると「オステオポンチン」というたんぱく質が増えて骨が減り、オステオポンチンがないマウスでは交感神経を刺激して活性化させても骨が減らないことを実験で確かめた。研究成果は米科学アカデミー紀要(電子版)に掲載された。